

津和野町埋蔵文化財報告書

高田地区埋蔵文化財 分布調査概要報告書Ⅳ

1996

津和野町教育委員会

高田地区埋蔵文化財 分布調査概要報告書IV

目 次

I.	調査に至る経緯	1
II.	位置と歴史的環境	2
III.	調査の方法と経過	4
IV.	調査の概要	5
	I 地区 (TP 1 ~ 7)	5
	II 地区 (TP 8 ~ 11)	9
	III 地区 (TP 12 ~ 14)	11
	IV 地区 (TP 15 ~ 22)	13
V.	小結	16

例　　言

1. 本書は、1995(平成7)年度に国・県の補助金を得て津和野町教育委員会が実施した埋蔵文化財分布調査の報告書である。
2. 調査を実施した場所は、島根県鹿足郡津和野町大字高峯地内、通称高田地区である。調査地点及び小字名は第1表(P15)のとおりである。
3. 調査を実施した遺跡は、高田遺跡である。
4. 調査にあたっては、下記の方々にご指導いただいた。

広島県立美術館　主任学芸員　　村上　勇　氏
島根県教育庁文化財課　　今岡　一三　氏
島根県埋蔵文化財調査センター　間野　大丞　氏
津和野町文化財保護審議会会长　銀川　兼光　氏

5. 本書に用いた方位は、第1~2図は真北、第3図は座標北、その他は磁北を示す。
6. 本書中に用いた記号TPは、テストピット(試掘坑)の略号である。
7. テストピット実測図のスケールは1/60、遺物実測図のスケールは1/3(第23図~20のみ1/6)である。
8. 写真団版中の遺物番号は、遺物実測図の遺物番号に対応する。
9. 調査に伴う記録類及び出土遺物は、津和野町教育委員会で保管している。
10. 調査の体制は、下記のとおりである。

調査主体	山根津知夫	(津和野町教育委員会 教育長)
事務局	益成 駿	(　　タ　　教育次長)
	広石 修	(　　タ　　文化係長)
	山本 博之	(　　タ　　文化係)
調査担当者	宮田 健一	(　　タ　　タ　)
調査員	永田 茂美	(　　タ　　嘱託)
調査補助員	青木 光恵	(　　タ　　臨時職員)
外作業員	三浦久男、三浦芳枝、三宅晴子、三浦千鶴子、三浦トヨ子、倉益愛子、 三浦リヨ子、倉信介男、安本和子、野村好江、舛成義一、舛成米子、 羽山尋、河野八重子、河野福江、河野武男、堀トミル、河野実、 河野里五郎、長嶺三千子、石井信義、石井紀美恵	

内作業員	兼子和恵
調査協力者	倉益愛子、三浦弘人、三浦素直(以上、土地所有者。敬称略)
	鹿足郡津和野町土地改良区、三浦芳一(平成7年度高田地区嘱託)、 麻原慶憲(島根大学学生)

ご協力いただいた方々には改めてお礼申し上げます。

11. 出土陶磁器に関しては村上勇氏、石塔に関しては間野大丞氏、石材については麻原慶憲氏に多大なるご教示を賜った。この場を借りてお礼申し上げます。
12. 本書は永田の協力のもと、宮田が編集にあたった。

I. 調査に至る経緯

津和野町周辺における埋蔵文化財は、津和野高等学校元教諭で郷土部顧問の故岩谷建三氏によって1954(昭和29)年頃より確認されはじめていた。高田遺跡のある高田地区でも1964(昭和39)年に石
たかた
鎚、土師器、須恵器が採集され、遺跡が存在していることが明らかとなった。当初は天皇原遺跡、
てんのうばら
鴻寄遺跡と呼ばれていたが、その後これらの遺跡を一連のものとすることが妥当と考えられたため、
こうより
高田遺跡と一括して呼称されるに至った。
こうより

ところで、津和野町内では1977(昭和52)年度以来、町内各所では場整備事業が実施されてきた。高田地区においても団体営ほ場整備事業計画が策定され、事業主体者である鹿足郡津和野町土地改良区と津和野町教育委員会は、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を重ねてきた。事業計画地内の埋蔵文化財の分布状況を早急に把握し、保存についての措置を講じる必要性から、1988(昭和63)年に島根大学考古学研究室の協力を得て踏査を実施した。その結果、広範囲にわたって土師器、須恵器、瓦質土器、近世陶磁器などの散布状況が確認されたため、さらに遺跡の遺存状況を確認するための分布(試掘)調査を実施する必要性が生じた。そこで、1989(平成元)年度より埋蔵文化財担当職員を配置し、今年度まで計5次にわたる分布調査を実施してきた。今年度の分布調査は、ほ場整備事業に先だって行われた高田遺跡分布調査の最終年度に当たる。調査は、津和野町教育委員会の直営事業として、国・県の補助金を得て実施した。



第1図 高田地区における分布調査状況 (1/10,000)

II. 位置と歴史的環境

津和野町は島根県西端部、鹿足郡にある山陰屈指の観光地である。青野火山群の活動によって形成された青野山、野坂山、雲井峯などに囲まれた狭長な盆地が生活の舞台となってきた。

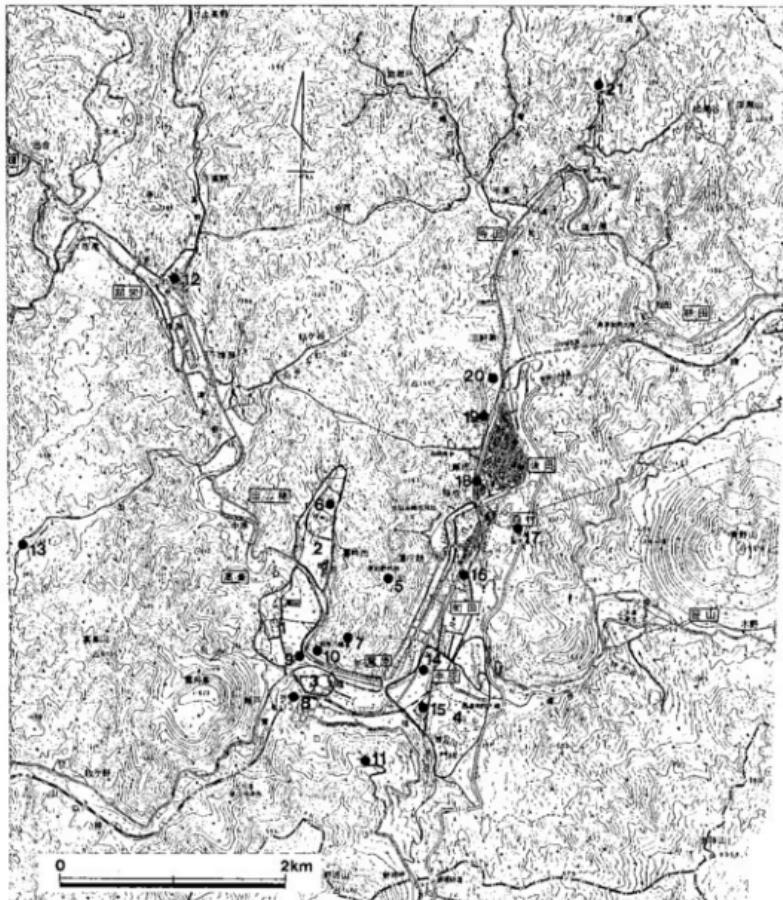
現在のところ津和野の歴史は縄文時代早期にまで遡り、高田遺跡(第2図1)、山崎遺跡(同図5)からは押型土器が出土している。また、高田遺跡からは中期の阿高式、後期中頃の鍾崎式土器がまとまって発見され、対岸の大蔭遺跡(同図3)からは後期後半の西平式土器が採集されるなど、当時この地域が九州地方の情報の及ぶ範囲であったことが窺える。

弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけて集落が営まれていたことが高田遺跡で確認され、在地の土器群に混じて吉備地方から運ばれてきた外來の土器が発見されている。町内の古墳は、津和野川最上流の木部地区において鐵治原古墳群が確認されているのみである。

高田遺跡からは奈良・平安時代の綠釉陶器、皇朝十二錢の一つ承和昌寶(836年初鋸)、大量の土師器、須恵器が発見されており、當時石見国鹿足郡能濃郷(元美濃郡鹿足郷)と呼ばれていたこの地域の重要な拠点が高田地区にあったものと思われる。

中世津和野の領主吉見氏は、弘安5(1282)年に元寇再防備のため能登国から津和野北部の木部地区に入り、その後14C代に津和野城を構えたと伝えられている。文献では吉見氏入部以前の記録はほとんど残されていないが、これまでの高田遺跡の発掘調査では12・13C代の貿易陶器が出土しており、吉見氏入部以前に津和野地方にも有力者が存在していたことが考古学的証拠によって明らかとなりつつある。また高田遺跡の別の調査区では、15・16C代の掘立柱建物跡、地鎮祭遺構、木棺墓などが検出され、土師質土器、瓦質の鍋・擂鉢などの日常雑器とともに多数の輸入陶器も発見されている。高田遺跡周辺には、吉見氏入部以前に勧請された可能性もある鷲原八幡宮(同図10)などの寺社、伝吉見民部の墓(同図9)、伝アオ様の墓などの中世石塔、天文23(1554)年陶晴賢軍が津和野城を包囲した際の陣城あるいは津和野城の支城が周囲に取り巻いているなど、中世の名残が散在している。また、高田地区には土井ノ内、本門、惣門、裏門、的場などの字名がみられ吉見氏の有力家臣団の屋敷地の存在が推定されてきた。ところで、中世の津和野城の大手口は近世以降とは反対側(西側)の喜時雨地区にあったと伝えられ、吉見氏の居館も同地に存在していたとする説がある。高田遺跡は、喜時雨地区から見て津和野川を隔てた対岸に位置することからも、吉見氏に関係した有力武士団の本拠地の一角であった可能性が高い。

関ヶ原の役後、吉見氏は毛利氏に伴い萩に移るが、その後、坂崎出羽守の16年間の治領となり、津和野城の大改築・城下町整備など現在の津和野の景観の基礎となる大事業が行われた。その後、亀井氏11代225年間の治世を経て明治維新を迎えることとなる。



- 1.高田遺跡 2.喜時雨遺跡 3.大蔦遺跡 4.中座遺跡群 5.津和野城跡
 6.要害山 7.中荒城跡 8.茶臼山城跡 9.伝吉見民部墓（宝篋印塔）
 10.鷺原八幡宮 11.陶晴賢本陣跡 12.横瀬遺跡 13.田平の至徳3年銘宝篋印塔
 14.西中組遺跡 15.山崎遺跡 16.森遺跡 17.丸山遺跡 18.山根遺跡
 19.伝吉見正頼夫人墓（宝篋印塔） 20.伝吉見頼行墓（宝篋印塔） 21.日浦遺跡

第2図 高田遺跡の位置と周辺の遺跡分布図（1/50,000）

III. 調査の方法と経過

今後予想されるほ場整備の計画範囲を対象にして、I～IV地区までの4地区に合計22ヶ所のテストピット(試掘坑)を設定した。後のほ場整備の際の切り盛りを考慮して、切り土の部分の埋蔵文化財の遺存状況の確認に重点を置きながら、対象地全域の埋蔵文化財の分布状況の把握に努めた。

1つのテストピットは 4 m^2 ($2 \times 2\text{ m}$)を基本とし、遺構面または地山面に達するまで掘り下げ、場合によってはサブトレンチ(補助試掘溝)を設定し地山の確認をおこなった。遺物は仮に機械的な層位で取り上げ、後で土層と概ね対比できるようにした。調査地点の公共座標への取り付けについては、次年度に本調査が実施される予定であることから今回は行っていない。埋め戻しも、次年度



第3図 試掘調査区配置図 (1/3,000)

には場整備が実施される予定であることから、填土はかけずに埋め戻した。現地調査は発掘・実測作業を1995年12月18日～翌年1月18日、埋め戻し作業を3月12・13日に行った。

IV. 調査の概要

今回の調査対象範囲は高田地区の中で比較的見晴らしの良い場所でありながらも、概して遺物の出土は少量であった。そのなかでも、单一時期の遺物包含層や遺構の遺存を確認することができた。

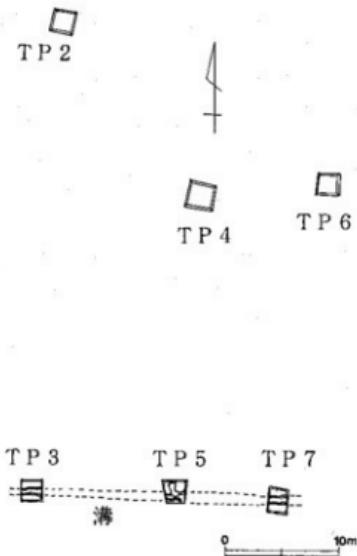
I 地区では、弥生時代後期～古墳時代前期と考えられる遺物包含層が存在しており、その下面で柱穴状遺構(ピット)、延長24m以上にわたる溝を検出した。II地区のTP11では、土坑3基の傍らから五輪塔空風輪部が出土した。III地区は、時期不明瞭ながらピット・炭が検出された。IV地区では遺構が見られず、多くの地点で礫石の厚い堆積、湧水が見られた。他の地区に比べると、中世遺物の包含量が多く、特にTP15では漆器皿のような木製品が遺存していた。

I 地区

多くの調査区において、近世以降の包含層(水田造成時の盛り土か)である灰褐色土の下に、弥生時代後期～古墳時代前期の遺物包含層である暗灰褐色土が遺存している。それ以下では、黄褐色系・暗褐色系の土が見られるが、無遺物層であった。

TP1

1994(平成6)年度試掘調査TP65周辺を再確認する目的で、同TPの南約16mの場所に設定した。耕作土・底土下は黄褐色系・暗褐色系の土となるが、これらの層では遺構・遺物ともに見られなかった。遺物は耕作土より近世以降の陶磁器片が出土している。これらのことから、1994年度TP65で検出した土坑状のものは黄褐色系の土の下の暗褐色系の土を遺構と見誤ったものと考えられる。



第4図 I地区(TP2～7)配置図(1/500)

TP2

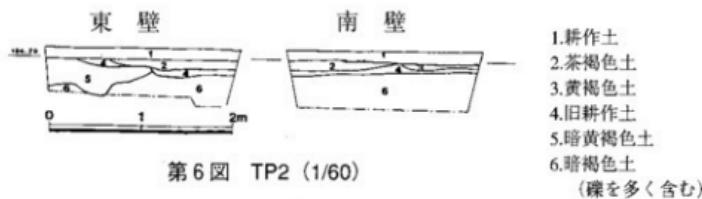
1994(平成6)年度試掘調査TP64の北約30mの場所に設定した。耕作土・床土下には旧耕作土が存在しており、その下にはTP1と同様に黄褐色系・暗褐色系土の無遺物層となる。遺構はない。旧耕作土までのところから近世以降の陶磁器片が出土している。

TP3

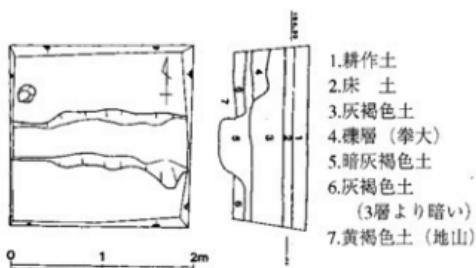
1994(平成6)年度試掘調査TP64の南約11mの場所に設定した。第6層上面でビット1穴と溝1条を検出した。溝は、上端幅0.8~0.4m、下端幅0.5~0.3m、深さ0.3m程度のものである。いずれも遺構内遺物はない。このTP3からは弥生土器・土師器などは検出していないが、周辺TPの状況から第5層は弥生時代後期~古墳時代前期の遺物包含層であると考えられる。1は床土付近より出土した染付磁器である。高台内には砂が付着しており、16~17c初頭頃の中国南方産のものである可能性がある。なお、第1~4層より近世以降の陶磁器片が検出された。



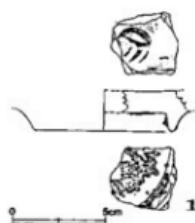
第5図 TP1 (1/60)



第6図 TP2 (1/60)



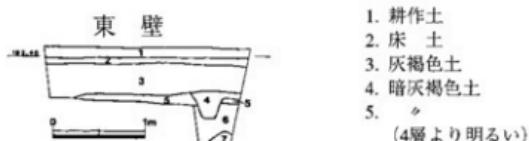
第7図 TP3 (1/60)



第8図 TP3出土遺物 (1/3)

TP4

調査区東壁にピット1穴を確認した。2は第4層付近より出土し、弥生時代後期の甕口縁部である。

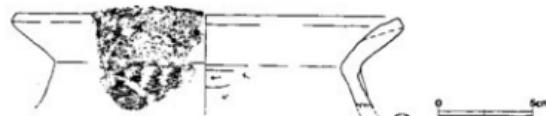


第9図 TP4 (1/60)

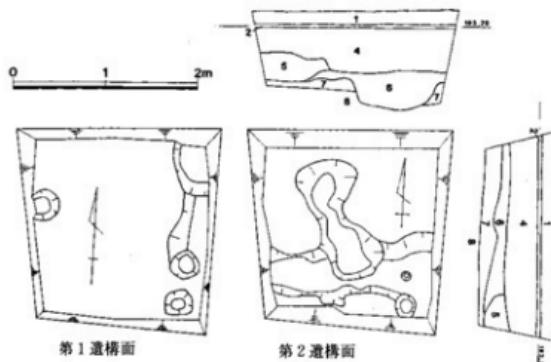
1. 耕作土
2. 床土
3. 灰褐色土
4. 暗灰褐色土
5. 沙
(4層より明るい)
6. 黄褐色土
7. 茶灰色土

TP5

遺構面は上下2面あり、4・5層下面（第1遺構面）は近世以降に、6層下面是（第2遺構面）は弥生時代後期～古墳時代前期に相当すると考えられる。第1遺構面には、ピット3穴、礫の詰まった土坑2基がある。その土坑中からは、近世以降の陶磁器片・瓦が出土している。第2遺構面は、東西方向にのびる溝の一部で、北側への張り出し部・ピット2穴が伴っている。これら遺構中からの出土遺物はないが、覆土である第6層上半より3～5が出土している。なお、6は第4層付近からの出土である。3は、山陰地域に多い甕



第10図 TP4出土遺物 (1/3)

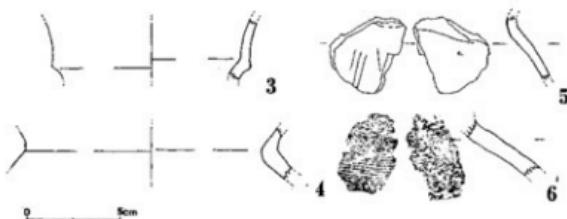


第1遺構面

第2遺構面

1. 耕作土
2. 床土
3. 4層と8層の混層
4. 灰褐色土
5. 灰褐色礫層
6. 暗灰褐色土
7. 淡灰褐色土
8. 黄褐色土

第11図 TP5 (1/60)

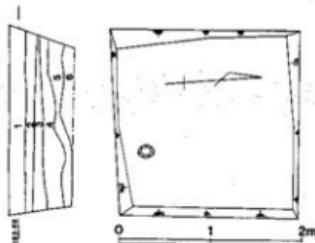


第12図 TP5出土遺物 (1/3)

の複合口縁部で、6は、その壺胴部上半の可能性があるので拂書き波状文が施されている。4～6の胴部内面はケズリ調整である。いずれも弥生時代後期～古墳時代前期の遺物と考えられる。

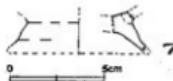
TP 6

第4層下面にて、ピット1穴を検出した。遺構内遺物はない。第4層付近より7が出土した。



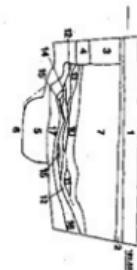
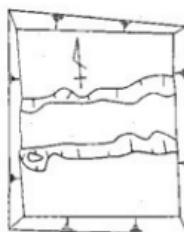
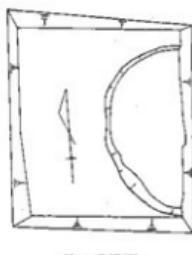
第13図 TP6 (1/60)

1. 耕作土
2. 床土
3. 灰褐色土
4. 暗灰褐色土
5. 灰褐色土
(3層よりやや暗い)
6. 黄褐色土

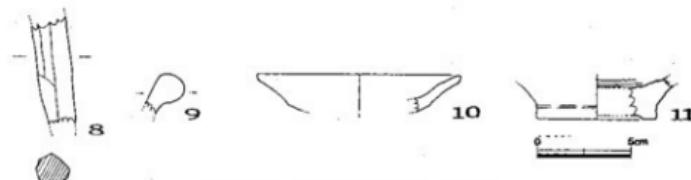


第14図 TP6出土遺物 (1/3)

1. 耕作土
2. 床土
3. 灰褐色土
4. 暗灰褐色土
5. タ
(5層より明るい)
6. 黄褐色土 (地山)
7. 淡灰褐色土
8. 淡黄褐色土と
淡灰褐色土の混層
9. 灰褐色土 (糠を含む)
10. 黄褐色粘質土
11. 灰褐色土
12. 黄褐色粘質土
13. 炭
14. 赤褐色土 (焼土)
15. 炭
16. にぶい赤褐色土
(焼土)
17. 灰褐色土



第15図 TP7 (1/60)



第16図 TP7出土遺物 (1/3)

は壊または鉢が付くと思われる脚部で、弥生時代後期～古墳時代前期のものと考えられる。

TP7

遺構面は2面あり、第7～17層(第1遺構)が近世以降、第5層下面(第2遺構面)が弥生時代後期～古墳時代前期に相当すると考えられる。第1遺構は近世以降の陶磁器片を大量に含み、焼土・炭の見られる土坑である。第2遺構面には、TP3・5に連続すると考えられる溝がある。この溝中からは内外面ハケ調整を施した弥生土器の胴部片が出土している。なお、8～10は第3層付近、11は第4層付近より出土した。8・9は瓦質土器、10は土師質土器、11は外面無釉の白磁碗で12cあたりの時期が考えられよう。

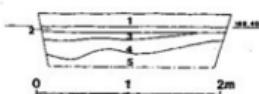
II 地区

I地区とはほぼ同様の層位が続くものの、I地区に比べると暗灰褐色土中の遺物は少量となる。

TP8

床土下には僅かに暗灰褐色土が遺存しているが、弥生時代後期～古墳時代前期の遺物はなく、遺構も存在しなかった。床土より近世以降の陶磁器片が出土した。

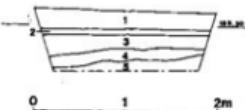
南壁



第17図 TP8 (1/60)

1. 耕作土
2. 床土
3. 暗灰褐色土
4. 黄褐色土
5. 暗褐色土
(3~5cmの石を多く含む)

南壁

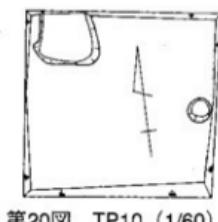
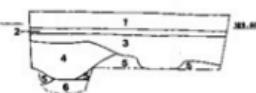


第18図 TP9 (1/60)

1. 耕作土
2. 床土
3. 灰褐色土
4. 暗灰褐色土
5. 黄褐色土
(礫を多く含む)

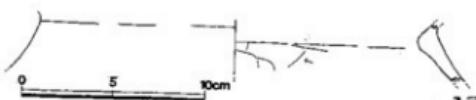


第19図 TP9出土遺物 (1/3)

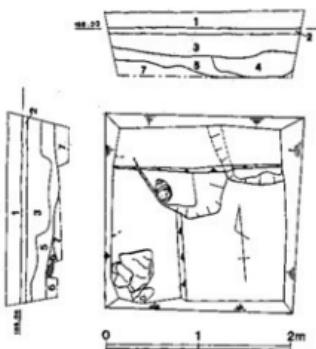


第20図 TP10 (1/60)

1. 耕作土
2. 床土
3. 灰褐色土
4. 灰 (10-20cmの礫・瓦を含む)
5. 黄褐色土
(礫を多く含む)
6. 暗褐色土
(礫を多く含む)



第21図 TP10出土遺物 (1/3)



1. 耕作土
2. 床土
3. 灰褐色土
4. 3層と4層の混層
5. 暗灰褐色土
6. タ (5層より明るい)
7. 黄褐色土 (地山)

第22図 TP11 (1/60)

TP 9

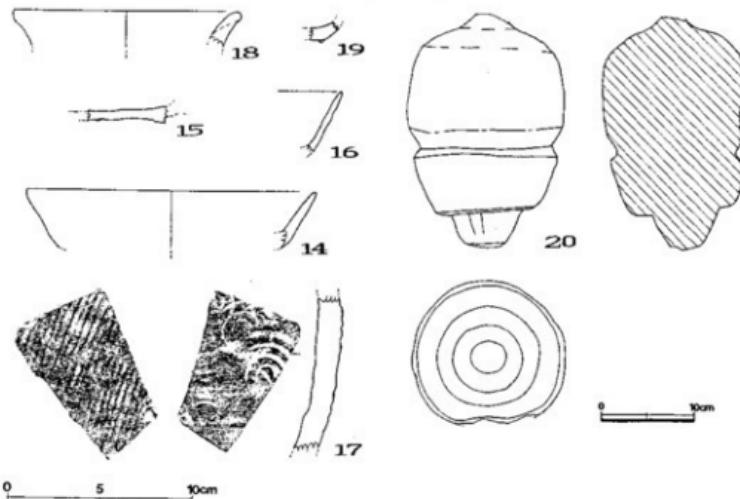
暗灰褐色土が遺存していたが、遺構は見られなかった。12は同層付近より出土したもので、弥生時代後期～古墳時代前期墳の甕頭部と思われる。

TP 10

検出した遺構には土坑1基とピット1穴がある。土坑の埋土は第4層で、近世以降の陶磁器・瓦を含む。ピット内遺物は出土していないが、その埋め土は暗灰褐色土であった可能性がある。13は第3層付近より出土した弥生時代後期～古墳時代前期の甕の頭部である。

TP 11

壁面で確認したものも含め、第3層中及び同層下面より掘り込まれた土坑を計3基検出した。土坑の前後関係については明らかでないが、中央の土坑上から五輪塔空風輪部が1個出土した。調査区南西には大石が集中しているが、これに伴う土坑などの遺



第23図 TP11 出土遺物 (14～19: 1/3, 20: 1/6)

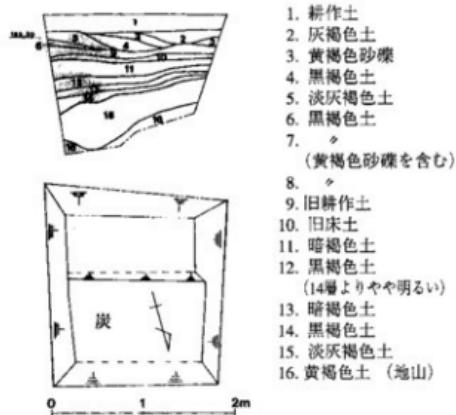
構は検出できなかった。16・17は第1層出土、19は第3層出土、14・15は第3層下面付近出土、18は中央の土坑中に混入していた。14～17は須恵器で奈良～平安期のもの、18は弥生土器か土師器の口縁部、19は中世の土師質土器皿底部片、20は五輪塔空風輪部で石材は地元青野火山群産の角閃石安山岩である。空輪部に比べ風輪部は小さく、そのくびれも弱い。16～17C頃の時期が与えられると思われる。

III 地区

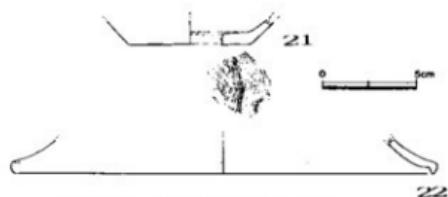
III地区に設定したTP13の南約25mには1990(平成2)年度本調査J区があり、南東約15mには同年度本調査K区がある。J区では特に中世後半の地鎮祭遺構、縄文時代晩期中頃の土器等興味深い資料が発見されており、今回の調査区ではこれらの遺跡の縁辺をとらえることを主な目的とした。

TP12

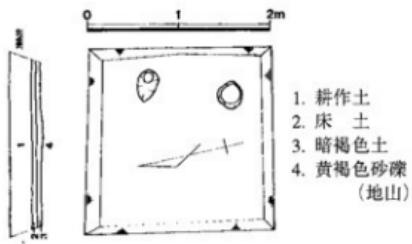
旧耕作土・床土の下には、東に向かって急激に傾斜した互層状の厚い堆積が見られる。地山までの間に遺構は見られなかつたが、第14層下面にて炭の集まりを確認した。共伴遺物に乏しく炭の時期決定が難しいが、第11層以上には近世以降の陶磁器片が伴い、第12～14層では中世土師質土器底部(21)のみが伴っていることから、中世以前と



第24図 TP12 (1/60)



第25図 TP12出土遺物 (1/3)

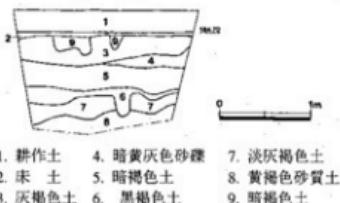


第26図 TP13 (1/60)



第27図 TP13出土遺物 (1/3)

東 壁

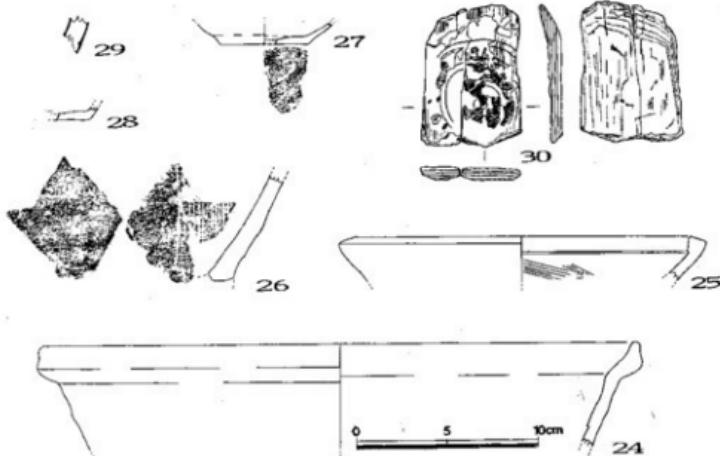


第28図 TP14 (1/60)

北 壁



第29図 TP15 (1/60)



第30図 TP15出土遺物 (1/3)

考えてよいのではないかと思われる。なお、
22は排土中出土の須恵器蓋端部で奈良～平安
期のものである。

TP13

床土下約10cmの暗褐色土をはさんで地山と
なる。地山上面ではピットを2穴検出したが
造構内遺物はなく、包含層も薄く遺物量が少
ないため時期決定は困難である。23は奈良～
平安期の須恵器坏底部である。底部に糸切り
痕は観察できない。

TP14

調査区東壁・西壁にて黒褐色土のピット3
穴を確認した。上層も含め出土遺物はほとん
どなく、ピットの時期決定は困難である。近
世以降の陶磁器片がわずかと鉄器片、須恵器
胴部片などが出土し、第6層からは炭が出土
している。

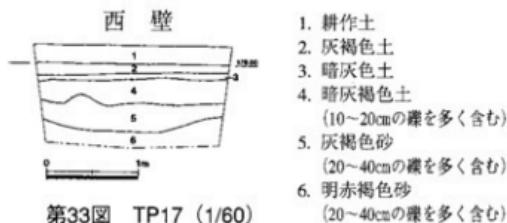
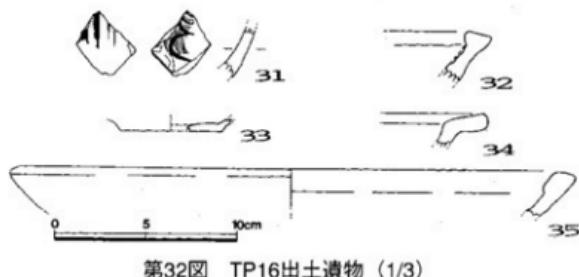
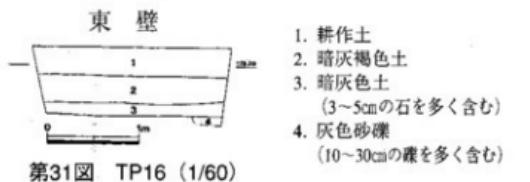
IV地区

多くのTPで、砂質土・砂・砂礫などの堆積が見られ、さらに湧水も顯著であった。

TP15

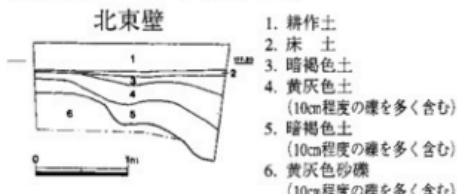
耕作土下は石を含む
だ土、砂質土等が堆積
しており、第5層の礫
を多く含んだ灰褐色砂
質土に至ると湧水が見
られたため発掘を止め
た。遺構はない。遺物
は第4層付近より中世
期のものが多く出土し
ており、調査のかぎり
では第5層は無遺物層
となる。27は第3層付
近から、24・26・28・
30は第4層付近から、

25・29は排土中からの
出土である。24~26は
瓦質土器である。24は
鍋の口縁部で茶が付着
し、25は擂鉢口縁部、
26は擂鉢底部である。
27・28は土師質土器皿
の底部。29は釉薬の厚
くかかった青磁で盤の
一部かと考えられる。
30は高台のない漆器皿
で、表裏とも黒色漆に
赤色漆による漆絵が認
められる。内面の漆絵

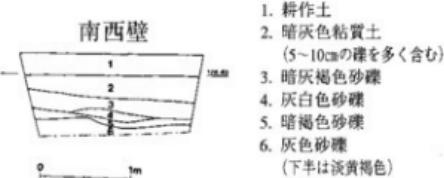
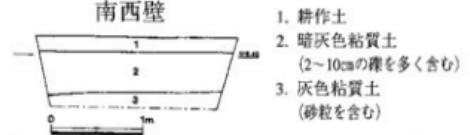




第36図 TP18出土遺物 (1/3)



第38図 TP19出土遺物 (1/3)



は桜花と草木かと思われる文様である。

TP16

第3層以下には石・礫を含んでおり、第4層がTP15の第5層に対応しているものと思われる。第4層付近より湧水が見られた。遺構はなく、遺物は第1層より31・34が、第2層より32・35が、第3層付近より33が出土している。31は同安窯系青磁碗で12~13Cのものであろう。32は中世瓦質土器で擂鉢口縁部、33は中世土師質土器皿底部と思われる。34は弦生土器の口縁部、35は繩文時代晚期前半頃の土器であろう。

TP17

地表下約1.1mまで発掘したが遺物が出土したのは第4層上半までである。遺構はない。第4層以下は礫を多く含んだ砂となり、底では湧水が始まる。36は第4層から出土した繩文時代後期中頃の深鉢口縁部である。口縁端で上方に立ち上がりを見せ、表裏ともに丁寧なミガキ調整がなされている。

TP18

第6層で礫層となり遺構はない。第5層以上には近世以降の陶器片を包含する。37は耕作土中より出土した青磁の小片である。

TP19

この調査区では東側に急激に傾斜した土層の堆積状況が観察され、第4層以下には礫が多く含まれていた。遺構はなく、遺物の出土もわずかである。**38・39**はともに白磁で、**38**はいわゆる口禿げの口縁部で13~14C頃に、**39**は壺付部のみ露胎した端反り皿の高台部で16C代のものであろう。

TP20

地表下約0.8mまで発掘したが、湧水甚だしく発掘を止めた。遺構はなく、遺物の取り上げもわずかである。

TP21

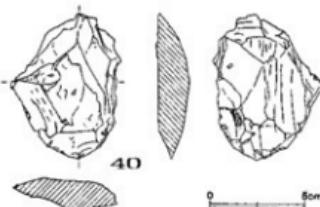
地表下約0.9mまで発掘したが、湧水甚だしく発掘を止めた。遺構はなく、遺物の取り上げもわずかである。

TP22

以前、田の町だおしをした際に盛り土をしたとされる場所である。地表下約0.8mまで発掘したが、礫を多く含んだ盛土層が続き人力での発掘が困難であったため作業を止めた。**40**は盛り土中より発見した縄文時代の打製石斧らしき石片である。



1. 耕作土
2. 黄褐色粘質土
3. 暗灰色粘質土
(10~50cmの礫を多く含む)
第41図 TP22 (1/60)



第42図 TP22出土遺物 (1/3)

第1表 1995年度高田地区試掘調査地一覧表

TP	所在地	字名	TP	所在地	字名	TP	所在地	字名
1	大字高峯406-1	家ノ前	9	大字高峯391-1	家ノ前	17	大字高峯530-2	前田
2	405	才蔵屋	10	391-1	タ	18	530-2	タ
3	400-1	家ノ背戸	11	390-1	タ	19	529-1	寺免
4	404	家ノ前	12	503	田渕	20	516	トヲサン
5	400-1	家ノ背戸	13	503	タ	21	516	タ
6	403	家ノ後口	14	503	タ	22	516	タ
7	400-3	家ノ背戸	15	503-2	前田			
8	390-1	家ノ前	16	503-2	タ			

V. 小結

I 地区 T P 3・5・7 で検出された溝は一連のものと考えられ、その性格の解明が今後の課題である。区画施設、導水施設等の機能が想定されるが、前者であれば溝の北側すなわち今回の試掘調査範囲で遺物・遺構の量が極端に少ないと関係するのかもしれない。南約100m付近でおこなった1991年度本調査M・N区においては弥生時代後期～古墳時代前期の土器棺墓が検出されており、S区では方形竪穴住居跡が検出されている。TP 3・5・7 のすぐ南側で試掘調査を実施していないため断言はできないが、今回検出した溝がこれらの墓地あるいは居住区域等を区画する施設である可能性が十分考えられる。また、I 地区の溝がII地区にまで延びるかどうか、今後の調査が待たれる。

II 地区 TP 11 では五輪塔の一部と土坑 3 基を検出した。このような石塔は周辺に散在しているが、いずれも当初の形をそのまま残しているものは稀で各石材がバラバラな状況で認められる。今回出土した石塔も現位置を保ったままでないが、石塔石材が当初の位置からさほど動かされていないと考えるならば、石塔とともに土坑についてもある程度の性格付けをすることが可能ではないかと思われる。すなわち、土坑はその規模から墓壙であり、石塔はそれらの墓に対して立てられた墓標あるいは追善供養塔の一部と位置づけることができるであろう。

III 地区ではピット・炭を検出し、南方の1990年度本調査 J・K 区で検出した遺構がさらに TP 14あたりまでは広がっていることが判明した。

IV 地区は土層の堆積状況から見て全域が名賀川または津和野川の氾濫原であったと考えられる。北方の1994年度本調査 W 1～X 2 区で縄文時代の大量の遺物を検出していたため、それらの流れ込み遺物が埋蔵されているかと予想されたが、調査のかぎりでは検出できなかった。しかし川の氾濫原とはいえども、IV 地区からは中世期の遺物が多く発見されている。それらは、北西方向からの流れ込みと考えられ、現在民家のある辺りから1994年度本調査 X 1・2 区にかけての場所には中世期の遺跡が埋蔵されている可能性が高いといえよう。

注

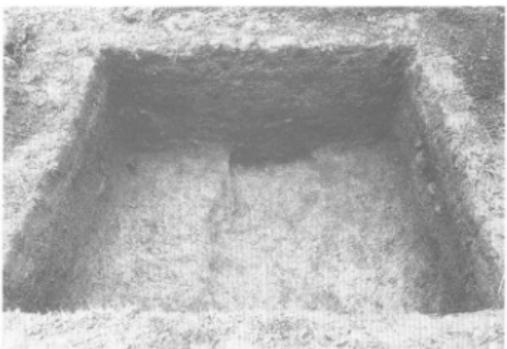
- 1) 野津茂美 1965 「津和野町高田の出土品」『石片』第11号 烏根県立津和野高等学校郷土部
- 2) 北浦弘人 1991 「高田地区埋蔵文化財分布調査概要報告書」 津和野町教育委員会
- 3) 沖本常吉 1970 「中世村落と莊園制の面影」『津和野町史』第1巻

図版 1

I 地区遠景
(北西より)



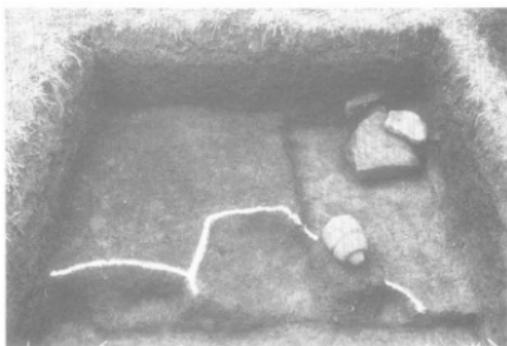
TP 3 溝状遺構
(西より)



TP 7 発掘作業風景
(西より)



図版2



TP11
(北より)



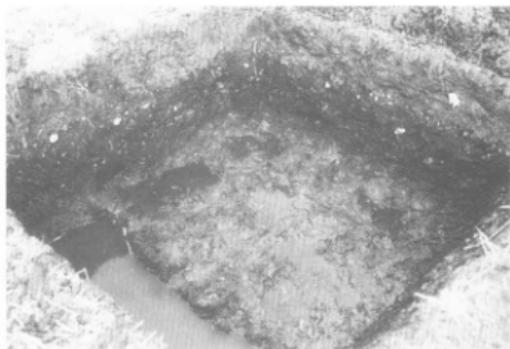
III地区遠景
(北西より)



TP13
(北西より)

図版3

TP15土層断面
(南西より)



TP17土層断面
(南東より)



よし み みんむ
伝吉見民部墓



図版4 出土遺物



報告書抄録

ふりがな	たかたちくまいぞうぶんかざいぶんぶちょうさがいようほうこくしょ
書名	高田地区埋蔵文化財分布調査概要報告書
副書名	
卷次	IV
シリーズ名	津和野町埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	
編著者名	宮田 健一
編集機関	津和野町教育委員会
所在地	〒699-56 島根県鹿足郡津和野町大字森村口127 TEL 08567-2-0300
発行年月日	西暦 1996年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °・'・"	東経 °・'・"	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たかた 高田	しまねけんくわいあしきん 島根県鹿足郡 つちのちくう 津和野町大字 たかた 高峯 たかたちく 高田地区	W	21	34度 27分 5秒	131度 45分 15秒	19951218～ 19960313	88	遺跡範囲 確認

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高田	集落跡、墓	弥生 古墳 中世	溝 1条 土壙墓 3基	五輪塔空風輪 貿易陶磁器 漆器皿	弥生時代後期～ 古墳時代前期の 遺跡を画する溝

津和野町埋蔵文化財報告書
高田地区埋蔵文化財分布調査概要報告書IV

1996（平成8）年3月

発行 津和野町教育委員会
島根県鹿足郡津和野町大字森村口127
印刷 (有)坂田印刷
島根県鹿足郡津和野町大字後田口702

